



第2号 2021年5月13日 塩崎 房美

今年は早くも九州南部が梅雨入りし、北部も曇りや雨の日が続いていますが、子どもたちは雨がやむと、元気に大好きな外遊びに飛び出しています。

4月23日に、川内・のぞみ幼稚園副園長の戸田奈都子牧師(川内教会)および平佐田智美主幹教諭(オンライン)を招き、「キリスト教園におけるインクルーシブ保育」について園内研修を行いました。すべての子どもたちの、のびやかな育ちを日々考えている私たち教職員一同、大変参考になる実り多き研修となりました。一部ですが、保護者の皆様にもご紹介したいと思います。



## <キリスト教保育=インクルーシブ保育>

戸田牧師からの「キリスト教保育とは、『神育て我ら仕える』です」「キリスト教保育はそもそもインクルーシブであり、インクルーシブではない保育はキリスト教保育ではありません」(めぐみっこだよりを参照下さい)

この二つの言葉を、私たちの保育の**原点**と捉えることができました。そして、これから私たち保育者が、子どもたちにどのように向き合っていけば、子どもたちにとってより良い保育に繋がるか、のぞみ幼稚園における保育の実践から分かりやすくお話ししていただきました。



### ☆子どもに寄り添う

- ・のぞみ幼稚園は、「ゆるやかな集団生活の場」となるように、「全員で〇〇する」「みんなが一斉に・・・」を止め、目の前の**子ども一人ひとりが安心して過ごせる園**にしている。
- ・集まりに入れなかったり、次の活動に切り替えが難しかったりする子どもたちそれぞれに理由があるはずなので、一人ひとりに寄り添い**個別にルールを一緒に作る**ようにする。
- ・年長・年中の子どもたちには、みんなで話し合う力が育ってきています。毎日の自分たちの過ごし方や、個性のあるもの同士で過ごす際に生まれる課題を「**〇〇会議**」として考え話し合ってみる。

### ☆保育者の声は届けるもの

- ・人の環境が何よりも大切なので、保育者は穏やかに、近づいて、静かに**声・言葉を子どもに届ける**ようにする。
- ・のぞみ幼稚園では「〇〇しちゃダメ」と言わないようにしている。「**〇〇はしていいよ**」と何度も何度も伝えていく。「ダメ」と言われると、子どもは行動ではなく自分がダメな子として認識してしまいます。やっていいことを繰り返し届ける。



### ☆絵本の力はすごい

- ・友だちと一緒に読み聞かせて、社会性を育むことができる。感想をあえて聞かないことも大切。

この研修からまだまだたくさんのお話を私たちは学ぶことができました。この学びを毎日の保育に活かし、それぞれの子が園生活を楽しく過ごせるように、そして健やかな成長を支えていきたいと思っています。